

概要版・読み方

ESG地域金融実践ガイド 2.1

ESG要素を考慮した事業性評価に基づく融資・本業支援のすすめ

2022年3月

環境省 大臣官房 環境経済課 環境金融推進室

This page is intentionally left blank

ESG地域金融実践ガイドの読み方と本概要版の目的

ESG地域金融は金融機関の経営層～現場の職員まで関わるものであるが、それぞれに担うべき役割は異なる。そこで、ESG地域金融実践ガイドは目的に応じてどこからでも読み始めることができる構成になっており、各自の目的に応じて読み始める章を変えることが可能である。以下に示す、各章の内容と想定される読者を参照いただき、関心のある箇所から読んでいただきたい。なお、本概要版は各パートのエッセンスをコンパクトにまとめたものである。

概要

ESG地域金融の概要と目的(経営陣向けサマリー)

地域社会を取り巻く課題や環境変化に触れながら、ESG地域金融実践の必要性や経営として考慮すべき点を解説。



- ✓ ・ESG地域金融を経営課題として検討している経営者
- ✓ ESG地域金融実践の意義を知りたい読者

ESG地域金融の実践内容の概要(実務者向けサマリー)

ESG地域金融を実践する際の基本的な考えを中心に実践方法として想定される3つのアプローチに共通して重要な項目を解説。



- ✓ ESG地域金融の取組を検討する立場（経営企画部等）の読者
- ✓ ESG地域金融の取組をはじめて検討しており、取組の全体像を簡潔に知りたい読者

アプローチ別の実践内容

アプローチ1・2・3それぞれの実施手順と留意すべきポイントを参考例とともに解説。



- ✓ 具体的にESG地域金融の取組を検討している現場職員
- ✓ ESG地域金融に取組むにあたりより詳細な実施方法を知りたい読者

詳細事例

地域社会が直面する課題に対して、本ガイドで紹介するアプローチを踏まえ、4つの事例を紹介。アプローチ間の有機的な結合についても図示。



- ✓ まずは理論よりESG地域金融の実践でどのような取組が行われているのか具体的に知りたい読者
- ✓ 各アプローチの実践内容を理解したうえで、実際のアウトプットをみてみたい読者

想定される読み手

経営陣向けサマリー：まとめ

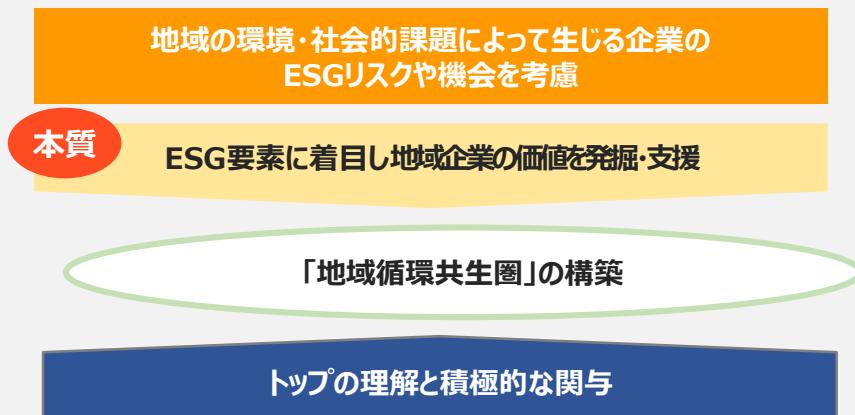
第1章 ESG地域金融の概要と目的（経営陣向けサマリー）

地域金融機関に求められる事項や、ESG地域金融を実践するにあたって経営として考慮すべき事項を解説する

01 | ESG地域金融とは

地域金融機関の地域における役割と、ESG地域金融を実践することで目指すものやESG地域金融によるメリットを説明。

ESG地域金融の本質



02 | 持続可能な社会の実現に向けた環境変化

地域が直面するは国内外共通の課題とともに変化しており、時間軸が追加され、課題解決の期限が設定されたことを説明。

地域社会を取り巻く課題の変化



03 | 経営者に求められる事項

ESG地域金融を経営課題とし、経営方針・戦略を策定する際や体制構築を行う際のポイントを説明。

経営方針・戦略の策定において考慮すべき4つの要素

- 01 | 多様なステークホルダーと連携
- 02 | 地域資源の把握・理解
- 03 | 長期的な到達点の策定と共有
- 04 | バックカスティングとインパクト

04 | まとめ | 持続可能な地域の実現に向けて

地域金融機関の地域における役割と、ESG地域金融を実践することで目指すものやESG地域金融によるメリットを説明。

持続可能な地域の実現に向けて



実務者向けサマリー：まとめ

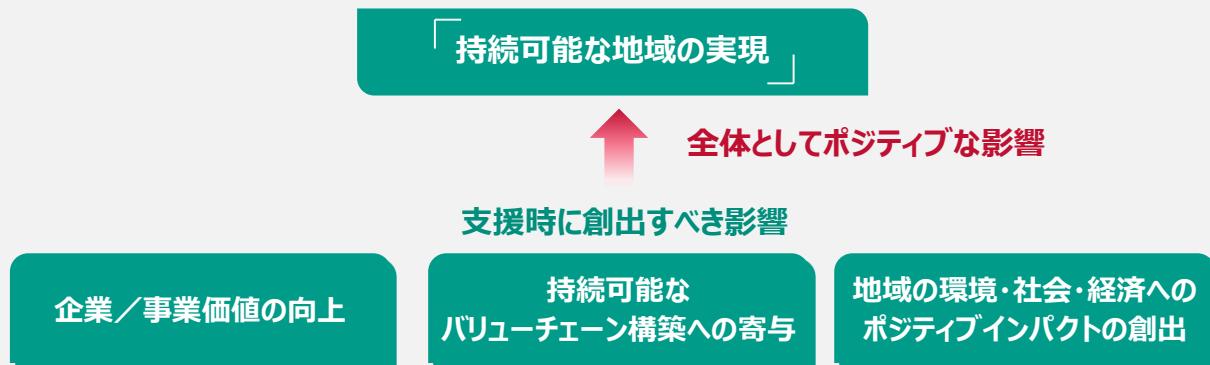
第2章 ESG地域金融の実践内容の概要(実務者向けサマリー)

ESG地域金融を実践する上での基本的な考え方、想定される3つのアプローチを説明するとともに、共通して重要な項目および目指す姿を解説する

01 | ESG地域金融の実践における基本的な考え方

ESG地域金融を実践する際には取組が与える影響を考慮し、影響が全体としてポジティブとなるように考慮する必要性を説明。

ESG地域金融の基本的な考え方



02 | ESG地域金融の3つのアプローチ

ESG地域金融の3つのアプローチや各アプローチの関係性や目指す取組の成果について説明。

3つのアプローチ



03 | ESG地域金融の実践における共通事項

ESG地域金融を実践するにあたり共通する4つの重要な事項を説明。

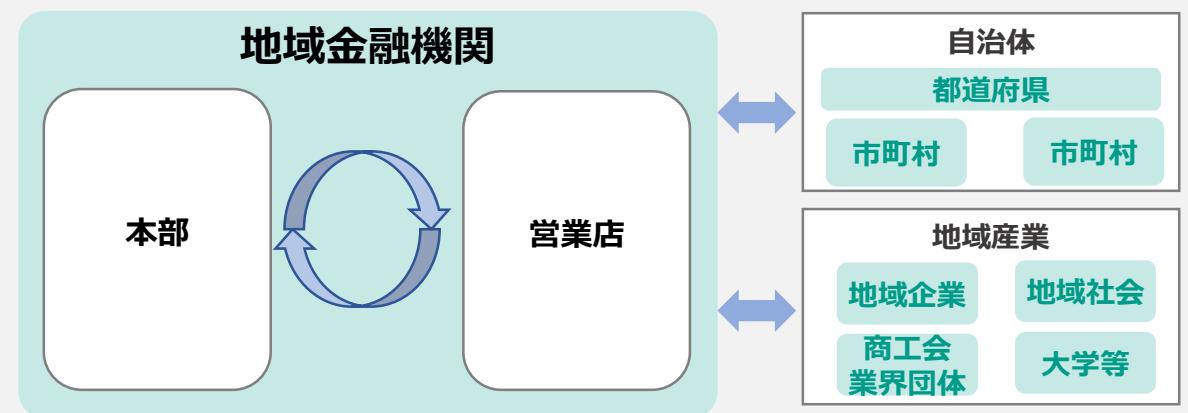
4つの共通する重要事項

- 1 地域資源の持続可能な活用に向けた価値の理解
- 2 バリューチェーンと対象産業/企業の位置づけ把握
- 3 地域の環境・社会・経済へのポジティブインパクトの創出
- 4 環境変化の把握と影響の理解

04 | ESG地域金融の実践において目指す姿

ESG地域金融を実践するにあたり、本部と営業店の連携し、組織としての知見を蓄積するための仕組みについて説明。

持続可能な地域の実現に向けて



アプローチ別の実践内容の構成

ESG地域金融を具体的に検討する際の手引書として以下5つの項目をアプローチ別に記載した。本部を参照することで目的に対して具体的に実施すべきことや留意事項が把握できるようになっている。

地域資源の特定および課題解決の検討・支援

目的と狙い
本アプローチの目的は、地域資源を活用して地域課題を解決することにより、持続可能な地域を構築することである。取組を通じて地域課題解決のほか、自治体や顧客との連携強化が期待される。

概要
地域資源を活用し、課題解決の検討・支援する際は、まず、地域社会を取り巻く環境変化が及ぼす影響を中長期的な時間軸で把握する。その上で、地域のステークホルダーとともに地域のあるべき姿（将来像）を共有し、実現に向け、活用できる地域資源を特定・理解し、活用方法（事業化等）を検討していくこととなる。本アプローチにおいては、地域に存在する課題に対して、資源プランの構築を検討することが重要。

POINT 1 地域資源の理解・活用
① 地域資源が持つ複数の機能を把握し、資源の活用方法を検討する。
② 地域課題共済の発掘・活用を推進し、効果的な資源活用を目指す。

POINT 2 自治体・事業者などの連携
① 方向性を定めるために、共通のビジョン等を共有する。
② 地域活性化に貢献的な事業者を支援・協働する。

A 概要とポイント
アプローチの目的と概要、ポイントを掲載。次ページ以降のまとめとなっている。

実践手順

■ 地域金融機関では、地域資源を把握・理解し、活用し、その資源を活用し、地域の持続可能性を向上させるための取組を推進することを目指す。また、地域社会を取り巻く環境変化が及ぼす影響を中長期的な時間軸で把握する。その上で、地域のステークホルダーとともに地域のあるべき姿（将来像）を共有し、実現に向け、活用できる地域資源を特定・理解し、活用方法（事業化等）を検討していくこととなる。本アプローチにおいては、地域に存在する課題に対して、資源プランの構築を検討することが重要。

実施事項	内容	中心主体（例）
地域資源の活用に向けた仮設構築	自治体や取引先との対話をもとに金融機関内で構築してきた情報が地域社会を取り巻く環境変化が及ぼす影響を中長期的な時間軸で把握する。その上で、地域のステークホルダーとともに地域のあるべき姿（将来像）を共有し、実現に向け、活用できる地域資源を特定・理解し、活用方法（事業化等）を検討していくこととなる。本アプローチにおいては、地域に存在する課題に対して、資源プランの構築を検討することが重要。	本部（営業推進、経営企画） 営業店
多様なステークホルダーとの連携	関連する多様なステークホルダーが意見を交換できる場を構築し、地域資源の価値への理解を深めることにより、仮設を構築する。	本部（営業推進、経営企画） 営業店
共通の目標設定（ビジョン策定）	地域が解決すべき課題を意見交換を通じて最終的に適及する持続可能な地域の理想像に落とし込む。自治体や取引先との対話をもとに、共通の目標を設定し、ビジョン策定を行う。	本部（営業推進、経営企画） 営業店
支援の検討	策定したビジョンの実現に向けた施策（事業案）を検討。事業案は地域資源を起点に数値化するなど、数値目標をつなげながら地域資源の有効的な活用を目指す。	本部（営業推進） 営業店

B 実施手順
アプローチを実施する上で想定される事項の手順を一覧で掲載。当該アプローチを実施するにあたり必要な事項を把握できる。

地域資源の活用に向けた仮設構築の全体像

■ 持続可能な地域の実現には、地域金融機関として、地域資源の活用に向けた仮設構築を推進することが必要となる。そのためには、地域資源を把握し、その価値を理解することが重要となる。最終的に活用方法を検討する際は、優先的に取組むべき地域課題の解決を模索するといった視点や新たな機会を捉える視点で検討することができる。

Point

1 地域資源の把握と理解
地域課題を把握する。森林等の自然資源の蓄積、空域などの文化遺産や地域の産業構造、研究開発的価値を把握する。

2 資源が提供する価値、サービスが地域社会にどのような価値をもたらすかを分析し、理解する。

3 情報と資源の活用方法を検討する。その際、地域の産業構造や地域課題を考慮することが重要。

持続可能な地域の実現に向けた資源を活用した課題解決の仮設構築

地域課題の特定
様々な課題を把握し、地域特性を踏まえて検討する上で、優先的に取組むべき地域課題を特定する。

持続可能な地域の実現に向けた資源を活用した課題解決の仮設構築

地域課題の特定
様々な課題を把握し、地域特性を踏まえて検討する上で、優先的に取組むべき地域課題を特定する。

地域課題の特定
様々な課題を把握し、地域特性を踏まえて検討する上で、優先的に取組むべき地域課題を特定する。

C 実施事項の詳細
実施事項の詳細を複数ページにわたり記載。ESG地域金融の実践者が行うべき調査内容や視点を掲載。

金融機関内の組織体制とポイント

■ 金融機関内では、経営層のコミットメントのもと、組織的に取り組むことが理想的であるが、まずは小さく始め、取組のメリットを把握し、経営層等に共有し、組織として取り組む推進を図ることが有効である。そのためには、長期的なメリットだけでなく、短期的なメリットも把握・整理していくことが重要。

組織体制（金融機関内）

本部
経営戦略室
ワーキンググループ
部署A 部署B
シナリオ室

地域金融機関
支店長
営業店
営業担当

金融機関としてのメリットの把握

実施事項
地域課題の仮設構築
多様なステークホルダーとの連携
共通の目標設定（ビジョン策定）
支援の検討

金融機関への効果
地域課題を把握することにより、地域社会を取り巻く環境変化が及ぼす影響を中長期的な時間軸で把握する。その上で、地域のステークホルダーとともに地域のあるべき姿（将来像）を共有し、実現に向け、活用できる地域資源を特定・理解し、活用方法（事業化等）を検討していくこととなる。本アプローチにおいては、地域に存在する課題に対して、資源プランの構築を検討することが重要。

■ 本部（営業推進、経営企画）
■ 営業店

■ 本部（営業推進、経営企画）
■ 営業店

■ 本部（営業推進、経営企画）
■ 営業店

■ 本部（営業推進、経営企画）
■ 営業店

D 組織体制
アプローチを実施するにあたり求められる金融機関の体制構築とステークホルダーとの連携を図示し、ポイントを記載。

留意事項

■ 地域金融機関が地域資源の価値を客観的に理解するとともに、その活用による地域課題の解決に向けて中心的役割を担うことが重要である。

■ 取組では、定量的な情報（活用、目的・ゴールの明確化、地域課題の考慮、地域金融機関の主体的な連携が重要）

留意事項	実施事項	実施手順との対応
定量的/質的データ	地域課題に関する情報は、定量的な情報（活用、目的・ゴールの明確化、地域課題の考慮、地域金融機関の主体的な連携が重要）	地域課題の仮設構築
地域課題の考慮	小規模の自治体や行政機関など大規模な自治体では理解が難しい。地域課題に関する情報は、定量的な情報（活用、目的・ゴールの明確化、地域課題の考慮、地域金融機関の主体的な連携が重要）	多様なステークホルダーとの連携
目的・ゴールの明確化	地域課題に関する情報は、定量的な情報（活用、目的・ゴールの明確化、地域課題の考慮、地域金融機関の主体的な連携が重要）	多様なステークホルダーとの連携
主体的な連携	地域課題に関する情報は、定量的な情報（活用、目的・ゴールの明確化、地域課題の考慮、地域金融機関の主体的な連携が重要）	共通の目標設定（ビジョン策定）

E 留意事項
アプローチを実施する上で課題となりやすい点、留意すべき点を実施手順との対応とともに記載。

詳細事例の読み方

地域社会が直面する課題に対して、本ガイドで紹介するアプローチを踏まえ、ESG地域金融を実践した4つの事例について紹介をしている。

本詳細事例を参照することで同様のテーマに取り組む際の参考になる他、アプローチ別実践内容の補足としても活用できるよう、関連する実施手順を各ページに併記している。

構成

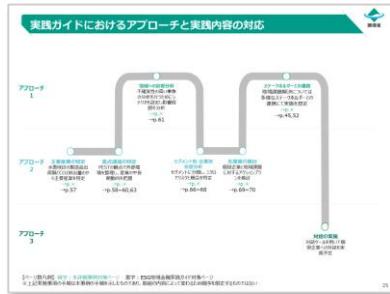
A 取組概要とポイント

取組概要と注目すべきポイントを掲載。ガイド策定に関与した促進事業の委員からのコメントも読める。本ページを最初に読むことで、後段の実施手順で注視すべき点や取組の全体像を把握できる。



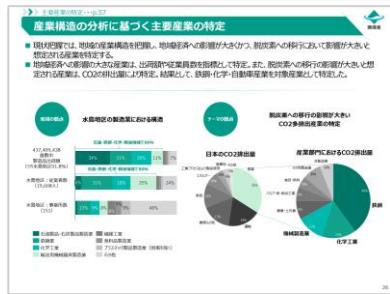
B 実施事項とアプローチの関係

促進事業を通じて行った実施事項を手順に沿って記載。実際の事例で各アプローチをどのように行き来するかを図示した。

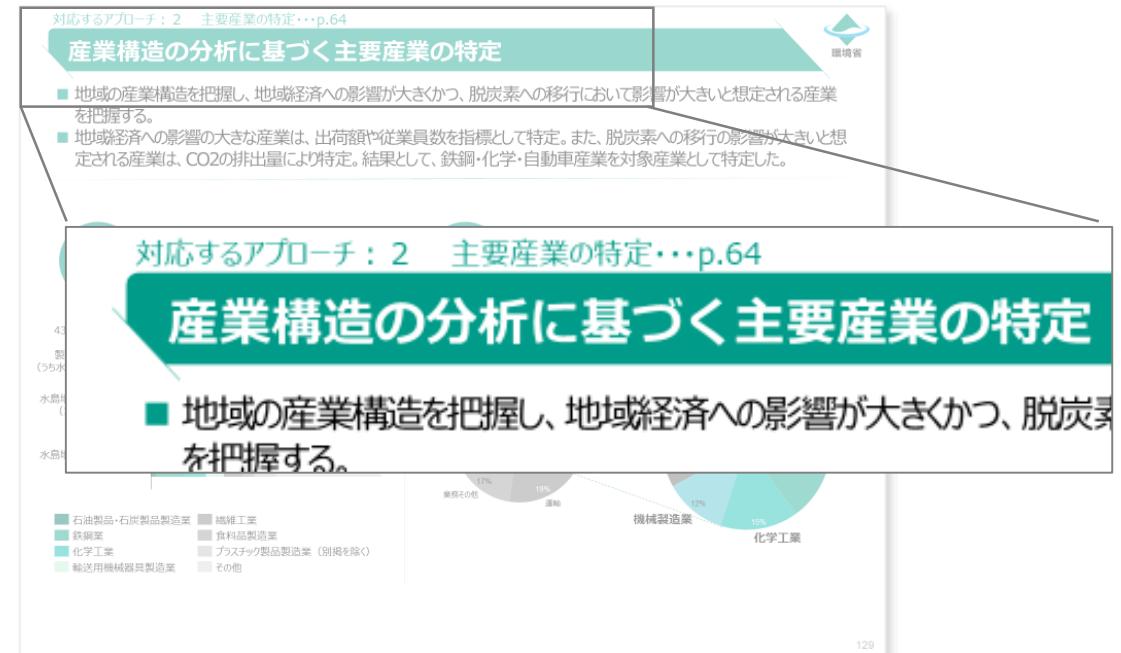


C 実施事項の詳細

実施事項の詳細を複数ページにわたり記載。類似する取組を行う際の見本として、または同様の取組を行う際のデータやアウトプットのソースとしての活用を想定。



ページの見方



対応するアプローチ：2 主要産業の特定・・・p.64

- ✓ ページに記載した内容と対応するアプローチを左端上部に記載
- ✓ アプローチの隣に本ガイド「Ⅲアプローチ別の実践内容」に記載されている実施手順の内、該当する手順と参照先のページを記載
- ✓ 例えばこれはアプローチ2の主要産業の特定における事項を記載したページであることを指す

産業構造の分析に基づく主要産業の特定

- ✓ ページに記載されている内容を一文でまとめたもの

令和3年度掲載事例と事例のポイント

01 地域資源を活用した 脱炭素ビジネスチャンスの獲得

キーワード：洋上風力・産業創出・プラットフォーム

北都銀行

「再エネ（風力）を軸とした地方創生に向けて
～脱炭素社会実現へのマイルストーン～」

- ポイント
北都銀行として風況が優れた海域を有している点を地域資源として特定。洋上風力の産業化をビジネスチャンスととらえ、既存のコンソーシアムを活用しながらステークホルダーと連携した点。

02 脱炭素社会へのトランジションに伴う 産業クラスターの持続性向上

キーワード：脱炭素・産業構造の転換・産業クラスター・影響分析

玉島信用金庫

「カーボンニュートラルに向けた水島地区の2次産業の
持続可能性の検討と支援体制構築に向けた研究」

- ポイント
地域の主要産業・企業が脱炭素への移行をしていく過程で生じる影響をバリューチェーンだけでなく、地域経済全体への影響も踏まえて分析。最終的に自治体や他地域金融機関との連携も見据えて支援策を検討している点。

03 産業構造の大転換に伴う サプライヤーの事業支援方法の確立

キーワード：自動車部品サプライヤー・EV化・脱炭素・事業転換

広島銀行

「自動車関連サプライヤーに対するESG 要素を考慮した
新事業創出支援スキームの検討」

- ポイント
EV化による金融機関の取引先への影響を事前に分析したうえで、産業構造の大転換に際して支援策を検討。今後事業転換が求められる可能性のある事業者にたいしても転用できるプロセスを実施した点。

04 SDGs登録制度を活用した 金融機関ビジネスの創造

キーワード：SDGs登録制度・自治体との連携・事業性評価

福岡ひびき信用金庫

「北九州市と地域民間団体との連携による
ESGを考慮した伴走型支援の仕組化」

- ポイント
既存の登録制度を金庫内の事業性評価に織り込むことで自治体が目指す方向性と一致した形で事業者の支援プロセスを検討した。加えて組織内での浸透を図るために金融機関の体制構築も実施した点。



環境省